

ウィリアム・モリス

(William Morris)
(1834 ~ 1896)

略歴

詩人としてはもちろん、工芸美術、印刷、装丁、染色、織物、壁紙、室内装飾、建築など、多方面で活躍した。に多大な影響を受けた。彼の諸作品には、一貫した中世志向が顕著であり、ある種の現実逃避的傾向も見られる。また晩年は空想的社会主義に傾倒した。アーツ・アンド・クラフツ運動の主宰者としても知られている。

作品

詩人としてはアーサー王伝説を扱った『**グィニヴィア女王の弁護**』(The Defence of Guinevere, 1858)が処女作である。他に『**王者韻**』(,) 42000行に及ぶ王者韻で書かれた長大な『**地上の楽園**』(The Earthly Paradise, 1868-70)がある。それ以外では、社会主義的な未来の社会を描いた『**ユートピア便り**』(News from Nowhere, 1890)が有名。
